

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

あらためて問う

「人工知能とは何か？」

『人工知能とは』

人工知能学会監修、松尾豊編著、山口高平（理工学部教授）ほか共著  
近代科学社／2592円（2016年5月）



人工知能研究の歴史は約60年。人工知能ロボット「鉄腕アトム」はまだ登場していないが、「アルファ碁」のようにプロ棋士と互角に、あるいはそれ以上に戦える人工知能プログラムは実現している。さらに自動車の自動運転にも注目が集まり、現在は第3次人工知能ブームといわれている。しかし人工知能の定義は一筋縄ではいかない。本書は「人工知能とは何か」という問いに、日本を代表する13名の研究者がそれぞれの視点で答えている。答えの共通点と相違点を考え読み進めるうちに、人工知能の世界の奥深さと未来を知ることができる。

教職員執筆の新刊

●小倉孝誠（文学部教授）著

『写真家ナダール―空から地下まで十九世紀パリを活写した鬼才』中央公論新社／2808円（2016年9月）

●木村福成（経済学部教授）ほか編

『国際経済学のフロンティア―グローバルバリエーションの拡大と対外経済政策』東京大学出版会／9180円（2016年9月）

●ジャック・デリダ著、渡名喜庸哲（商学部准教授）訳

『最後のユダヤ人』未來社／1944円（2016年10月）

●宇津木愛子（商学部教授）著

『世界と英語と日本人』北樹出版／1944円（2016年11月）

●村井 純（環境情報学部長）監修、秋山美紀（環境情報学部准教授）、

中澤 仁（同）ほか編著

『価値想像の健康情報プラットフォーム―医療データの活用と未来』

慶應義塾大学出版会／3240円（2016年11月）

●慶應義塾幼稚舎「疎開学園の記録」編集委員会編

『慶應義塾幼稚舎―疎開学園の記録 下』慶應義塾大学出版会／2700円（2016年11月）

## 慶應義塾この一冊

『小泉信三エッセイ選1』

小泉信三著

―善を行つに勇なれ―

慶應義塾大学出版会／3024円  
（2016年10月）



小泉信三元塾長の待望のエッセイ集。先に編まれたスポーツにまつわる『練習は不可能を可能にす』（2004年）も感銘深いものだったが、本書はより広く多彩なテーマで書かれたものの中から、4名の義塾教員が選び抜いた珠玉の随筆集である。すべての文章に『善を行つに勇なれ』という気品に満ちた、真の自由人としてのぶれない心が貫かれている。塾生、塾員、教職員にとっても学ぶことの多い一冊である。